

令和6年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
東水沢保育園

I. 保育目標

- 健康で明るい子ども
- 豊かな心を持つ子ども
- 自分のことは自分でできる子ども
- 他人のことを考え、協力できる子ども
- 何故だろうと考え、物事に疑問を持つ子ども
- 自然に親しみ、愛することができる子ども
- 人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども

II. 施設運営の重点課題

- 地域のニーズに合わせた保育事業の展開
- 特色ある保育の実践
- 保護者支援
- 情報発信をし地域との連携を図る
- 専門機関との連携を図る
- 「食を営む力」を育む
- 自己評価における学び合い
- 「たくましい子を生み育てる」保育の実践と研究

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

III. 評価項目と取り組み状況

自己評価項目		評価	取り組み状況
1	地域のニーズに合わせた保育事業の展開 ・保育の充実に努める ・地域との連携	B	・保育の充実のため、特色ある保育、病児保育事業（体調不良児対応型）、延長保育事業等の実施や日常の感染症対策、安全対策（安全計画、ヒヤリハット記録、散歩マニュアル等）の見直しや活用を進め、園児一人ひとりにふさわしい生活の場を提供した。 ・地域と連携し、多様なニーズに応える保育園としての役割を果たそうと努めた。
2	特色ある保育として、自然体験や社会体験目的の園外保育、日本文化に触れる和太鼓の取り組み等を通して豊かな心の成長を育む。	A	・バスで園外保育に出かけ、自然に触れる体験を通し、仲間と共有しながら発見し遊びを広げたり、自然と関わる力を深め、豊かな心の成長につなげていった。公共の施設を利用することでルールを守り、関わる人達の仕事を知り、興味関心を持つと共に社会性を身に付けていった。 ・和太鼓に触れ、リズムに合わせる心地良さを感じ仲間との協調性を身に付けた。

3	<p>個別面談、保育参加、保育体験、子育て講演会を行い、子育ての実践向上につなげると共に、対話を通して園と家庭との相互理解を図る。また、子育て支援拠点事業の実施において保育の専門性を生かし地域の子育て家庭における保護者支援を積極的に行う。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談（前期・後期の2回）、保育参加日、保育体験、子育て講演会を行い、園と家庭との相互理解に努めた。必要に応じて随時、面談や保護者対応を行い、子育て不安や育児、家庭の状況を対話を通して把握に努め支援を行った。 ・子育て支援拠点事業では、イベント開催(季節毎の内容)、子育て講演会、離乳食体験等を開催した。親子のリフレッシュの場として、ニーズに合わせ参加いただき、子育て支援センターとしての機能を果たした。沢山の方々に利用していただくよう、引き続きニーズ調査と開催内容の検討をしていく。
4	<p>地域へ情報発信をしながら連携に努め、様々な社会資源の活用を促進する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログを積極的に更新したり、子育て支援拠点事業「風の子だより」の地域への回覧、配布や、信用金庫へ行事の貼りだし等行い、園の活動を知らせていった。 ・地域の方々（ボランティア協会の方々や畑活動、お茶のお稽古、絵本読み聞かせ会、味噌作り、キッズ英語）にご指導いただきながら、連携し交流を図ることができ充実した保育活動に繋がった。 ・中学生、高校生の職場体験、保育体験を受け入れ子どもと触れ合いながら、保育の仕事を知ってもらう機会となった。
5	<p>地域のネットワークを生かし、行政機関、専門機関と協力し合い、対応の強化に努める。</p>	A	<p>専門機関と連携を図り、指導を受け、配慮が必要な子のケース検討をし保育実践に活かすことができた。</p>
6	<p>「食を営む力」を育むため、家庭、地域との連携を深め（地産地消・風の子農園の活用）子どもの健やかな心身の成長発達を促す。 また、食物アレルギー児の対応として、家庭と保育士・栄養士・看護師が情報共有しながら適切な支援を進める。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「食を営む力」の育成に向け、食育計画を基に提供していき、保護者に食に対する正しい知識（バランス、食べることの大切さ、栄養の情報）を便りや文化祭のコーナーで発信していった。 ・地域と連携しながら、地産地消を取り入れ安心、安全な食の提供に努めた。 ・風の子農園を活用し、野菜の生長や収穫の喜びを持たせ、調理を行い食への興味関心を高めた。
7	<p>自己評価の基盤となる「子ども理解」を学び合い、専門性の向上を目指し「たくましい子を生み育てる保育の実践と研究」を進める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国保育協議会「発達が気になる子のコミュニケーション力育て」を読み合い、子ども理解へ繋がった。全国保育士会「人権擁護のセルフチェックリスト」を活用し、保育の振り返りを行った。 課題に向き合い、保育力を高めようと努力した。 ・園内・外部研修会へ参加し、資質向上に努めた。